

2年 音楽科学習指導案

授業者 高田 遥

1. 単元名「ポルカのリズムをかんじて《山のポルカ》をえんそうしよう」

2. 本時の指導

(1) 本時の目標

《山のポルカ》の特徴である、「タタタン」というポルカのリズムが生み出す音楽のイメージを感じ取り、イメージが伝わるように表現を工夫しながら、歌や楽器で意欲的に演奏することができる。

(2) 本時の学習過程

学習の流れと児童の意識	○指導者の役割・ ◎子どもをやる気にさせるポイント	□評価
<p>1. 歌と楽器、踊りに分かれて演奏した《山のポルカ》を、思い出しながら演奏する。</p> <p>2. 2つの《山のポルカ》を聴き比べ、考えたことを交流する。 T「どうして《山のポルカ》は「タタタン」というリズムで演奏するのかな? 2つの《山のポルカ》を聴いて考えよう。」 C「①は3回叩いていて楽しく踊っている感じだけれど、②はタンタンと2回だけ叩いていて真面目に踊っている感じ。」 C「①はたくさんジャンプしたりスキップしたりしている感じ、②は気持ちよく歩いている感じ。」</p> <p>3. イメージしたことが伝わるような演奏の工夫を考える。 C「楽しい感じだから、音を強くしてみようかな。」 C「ジャンプやスキップだから、スタカートをつけてみようかな。」</p> <p>4. グループでイメージや演奏の工夫を交流しながら、イメージが伝わるように演奏する。 C「音を強くしてみたけど、強すぎて楽しい感じじゃないな。だんだん強くしてみるのはどうかな。」 C「もう少し速くしてみるとイメージが伝わるかもしれないよ。」</p>	<p>○演奏させながら、ポルカのリズムが備わっている楽器や踊りのリズムを正確にできているかどうか確認し、必要に応じて何度も演奏させる。</p> <p>◎ポルカのリズムで演奏されている《山のポルカ》(①)と、拍打ちで演奏されている《山のポルカ》(②)を比較聴取させる。</p> <p>○必要に応じて、①と②の演奏と踊りを合わせ、知覚・感受を深めさせる。</p> <p>○気づいたことやイメージしたことをワークシートに記入させ、交流させる。</p> <p>○気づいたこととイメージしたことを結びつけて板書し、①の「タタタン」というリズムが《山のポルカ》の特徴である【ポルカのリズム】であることを伝えてラベリングする。</p> <p>○活動2の交流で出された児童の意見を取り上げて、どのように演奏すればそのイメージがより伝わるかどうかを考えさせる。</p> <p>◎出された意見を実際に演奏して試させて、イメージが伝わるかどうかを考えさせる。</p> <p>○各自のワークシートを持ち寄ってポルカのリズムで演奏されている《山のポルカ》のイメージや奏法を交流し、グループでどのような《山のポルカ》を演奏するか相談し、実際に演奏させる。</p> <p>◎グループの中で聴く人を決め、自分たちの演奏を聴いて実際にイメージが伝わるかどうか確認させる。</p>	<p>音楽の特徴を知覚・感受させる。</p> <p>2つのリズムの違いに気づき、リズムに伴うイメージの違いを感じ取って、ワークシートに記入している。</p> <p>学んだ音楽の特徴をいかして演奏させる。</p> <p>イメージが伝わるような演奏の仕方を考え実際に試してみている。演奏をふり返っている。</p>